

森林官からのおたより

茨城森林管理署 久米森林事務所

森林官 飯塚 三千代

久米ってこんなところ

私の勤務する久米森林事務所は、茨城県中北部の常陸太田市及び常陸大宮市にまたがる区域を管理しています。スーパーなどで見かけた方もいるかもしれない『くめ納豆』の本社が森林事務所のすぐそばにあります。その「久米」です。

また近くには水戸黄門で有名な徳川光圀公が隠居した西山荘や光圀公のお墓があることでも知られていま



竜神平からの眺め

す。

管内の国有林はスギ・ヒノキ人工林を中心に1,300畝ほどで、小さな団地に分散しています。

事務所から車で5分のところにある久米国有林の頂は竜神平と呼ばれていて、デジタルテレビアンテナ敷として貸付しているのですが、そこから見下ろす景色は一面の田んぼです(写真)。

このように米所としても適した土地柄からか、かつては山間の谷間まで田んぼとして利用されていたようで、民有地が沢に沿って深くまで入り組んでいます。そのため、管内の境界標は約15,000点、延長269キロメートルと多く長いのが特徴で、地域との関わりも重要です。

この手強い境界を見廻るにはベテラン職員の協力が不可欠です。

当森林事務所の現場職員は臨時職員の1名のみですが、隣接森林事務所との職員2名が併記発令となっているため、そちらの森林官と共に協力してもらい、業務にあたっています。さすがにベテラン、身軽でタフな姿は頼もしい限りです。そしてここ

で欠かせないのがコンパスグラスです。ハンディタイプで軽く、のぞき込めるので、持ち運びに適しており視準も正確なので、不ポイント探しに重宝しています。

森林官の仕事を通して思うこと

森林官になって2年8ヶ月が過ぎました。1年目は目の業務をこなすだけで精一杯でしたが、少しずつ余裕が出てきた2年目を以降、身近な題材をもとに調査・発表することに取り組んでいます。

昨年はスギ林を皆伐した後の谷底にケヤキを植え、水辺林再生に取り組んでいる箇所の継続調査を行いました(写真・ケヤキ水辺林)。ここが将来どうなっていくのか楽しみ！。こうした事例は多くないので、調査



ケヤキ水辺林

を継続し、その成果を今後に生かしていくことが必要です。

今年は人工林の「つる被害」に着目し、その実態を調査し、先日森林技術センターで行われた「森林・林業公開講座」において発表しました(写真)。公開講座での聴講者は一般の方も多く、業務とは異なる目線の意見を聞けるため、自分にとっても刺激を受け勉強になりました。

森林官となって日々の業務を進めていく中では、答えが見出せない問題や、どうにもならない問題にぶつかります。それでもあきらめずに、将来に渡っていい森林を残すにはどうしたらいいのか。その答えを探しながら、自分に出来ることを少しずつ見つけて実践しながら、これからのいい森林づくりに精進していきます。



「つるの被害」についての発表